The Kansai University Bulletin

關西大學學報

昭和七年四月十五日發行

第九十八號

目次

卒業式式辭……學長　仁保龜松…(四)
日本民謠の主潮概論…校友　藤本浩一…(七)
價値不必要論……大學院學生　佐伯三郎…(一三)
學內報……(一六)
卒業證書授與式——卒業者數及受賞者——祝辭及答辭——入學試驗施行——定例協議員會——動靜
校友彙報……(一九)
校友會常議員會——校友會總會竝懇親會——東海支部——動靜
學生彙報……(二一)
本誌創刊十周年記念懸賞論文募集要項……(二二)
圖書館新着圖書一覽……(二三)

關西大學學報局

住宅地

風景秀美
施設完備
價格低廉

乘車券贈呈
年月賦分讓

京阪線＝枚方東口、朝日ヶ丘、香里園、牧野
新京阪線＝桂、高槻、攝津梅ヶ丘、神崎川
千里山線＝下新庄、垂水、花壇前、大學前、千里山

京阪電車

大阪天六　電話堀川二三一

關西大學學報　第九十八號

昭和七年四月十五日發行

古書瞥見

森誠一氏藏

Grundlegung

zur

Metaphysik

der Sitten

von

Immanuel Kant.

ECOLE DE THEOLOGIE ORATOIRE

Dritte Auflage.

1817.

Riga,

bey Johann Friedrich Hartknoch

1792.

カントの『グルンドレーグング・ツウア・メタフイジーク・デア・ジッテン』の第一版は千七百八十五年リガのヨーハン・フリードリッヒ・ハルトクノホから出版された。丁度『純粋理性批判』が出てから足掛け五年後で彼れの思索もいよ〳〵深まり行つた頃である。特に同年に於けるカントの著作としてはこの外〈アダー論〉（一般文學新聞所載）月の火山に就て（伯林月報所載）並びに人間種概念の規定（伯林月報所載）があるが、經つた單行本としては、この道德の形而上學への基礎以外にないだけ、同年に於ける彼の思想的動向はこの書に盛られてゐるといつて差支ない。寫眞は初版より八年後れて千七百九十二年同書房から出された第三版のタイトル・ページである。

卒業式々辭

學長
法學博士　仁保龜松

本日茲に本大學專門部第二部(夜間部)第四十四回、本學附屬關西甲種商業學校第十七回、同第二商業學校第七回の卒業式を擧行するに當り、閣下並に各位の御臨場を忝ふし、斯くの如く盛大に擧式することを得るは、誠に本學の光榮とする所、卒業生一同の欣幸とする所でありまして謹て深厚の謝意を表します。

本日卒業證書を授與したる者の數は專門部第二部五百十二名、甲種商業學校百三十四名、第二商業學校百五十三名、合計七百九十九名でありまして、午后本學千里山學舍に於て擧行する大學部卒業式に於て、學部卒業證書を授與せらるる者二百三十九名、大學豫科修了證書を授與せらるる者二百二十名、總計千二百五十八名の多數に達するのであります。

斯くの如く多數の卒業生を出すに付ては、先づ以て教授助教授講師諸氏が懇篤且つ誠實に職責を御盡し下されたことに對し、深甚の敬意を呈し深厚の謝意を表します。

次に本學の校運は近年甚だ順調であつて、現在我國に於ける多數の私立大學中に在つて、本學は名實共に三大學の一に數へらるるとの好評を屢々傳聞するに至りましたことは、私の最も欣快とする所であります。果して斯くの如き發達を呈することを得たりとすれば、此の好運に付て先を以て大阪府廳並に大阪市役所に對し、常に本學に多大の擁護と便宜とを與へらるることを感謝せねばならぬのであります。又第四師團司令部が深厚の情誼を以て種々の援助を與へらるることに對し、更に當市の有力者並に有志諸氏が尊き同情を以て援助を惜まれざることに對し、殊に校友諸氏が陰に陽に母校を擁護せらるる厚誼に對し深甚の謝意を表する次第であります。

今後共に本學經營の局に當る者を始として、教職員一同奮勵努力以て益々本學の健實なる發達を計らんとするのでありますから、舊に倍して御同情と御援助を賜はらんことを切望致します。

之より本日の卒業生諸子に對し、聊か微衷を披瀝して送別の辭に代へんとする。

諸子は三年乃至五年の長日月に亘りて所定の學科を履修せられ、殊に夜間部に通學の多數者は晝間夫々業務に從事し、疲勞せる心身を以て勉學を繼續せられ、本日無事に卒業せられたことは、諸子の保健上最も慶賀に堪へざる所であつて、父兄其他保護者方の御滿足は之を拜察するに餘りあると共に、私も亦自已の責務を果したるの喜びを感ずる次第であります。乍併今後諸子の活動せんとする社會の現狀を通觀するときは、諸子の前途に付き憂慮せざるを得ざる事情が餘りに深刻なるを悲まざるを得ないのであります。從て諸子が斯る現狀に直面して覺悟と注意とを要する事項は多々あること勿論であるけれども、私は特に時代の要求と自已の經驗とに徴して、最も必要と認むる一二の事項を指摘し、諸子の考慮に資せんとする。

第一に諸子は現時の實社會に出でゝ、飽迄も強固なる意思を主持し、堅忍不拔の精神を忘失せざることを要する。

畏くも　明治大帝の戊申詔書に於ては、荒怠相誡め自彊息まざるべし

と、誠飭し玉ひ、又　大正陛下の民風作興の詔書に於ては、國家興隆の本は國民精神の剛健に在りと訓諭し玉ふたのであります。自彊息まず又は精神の剛健なることは、共に強固なる意思と離るべからざる關係を有すること勿論であります。而して諸子が先に義務教育を卒へ、自ら進んで中等學校に入り、又更に專門學校に進んで、今日其の業を卒へたることは、即ち自彊不息にして強固なる意思を持續したことを證明するものであります。左れば此度の卒業に依つて、將來實社會に活躍することを得る資格と素力とを收得したる以上は、愈々立身出世の爲めに、在校當時に比して層一層奮勵努力すべき筈であります。然るに近時青年學徒の間に行はるる通弊の一は薄志弱行であり、逡巡姑息であり、更に常軌を脱し又は自暴自棄に陷ることであります。然も世界的不景氣、經濟國難、就職難、失業苦の如き社會的事象は依然として存續し、又は一層深刻ならんとする現實であります。

斯くの如き世相に直面して堅忍不拔不屈不撓の意思を固持すること能はざる者、即ち俗語の意氣地なしとか又は辛抱足らずとか言はるる者が自然に競爭場裏に於ける落伍者となり、終に自屈自滅の悲運に陷るに至ることは當然の理勢であります。往昔希臘の末期に於て、北夷侵入の脅威に恐れて意氣銷沈したる國民を覺醒する爲めに、彼の哲人「ゼノン」が確乎不動の意氣を基調とする「ストア」哲學を唱導し。又近代の初期に於て瑞西の「ペスタロッチ」及び獨乙の「フイヒテー」諸氏が強固なる實行意思を基として、行詰りたる當時の國民教育の革新を主唱し、殊に現時伊太利の「ムツソリニ」及び獨乙の「ヒツドラー」が絶大の實行力を基として國難を打開せんとするが如きは、政治上又は理論上の論評を別として、孰れも時代の要求に促がされて勃興した實際的活動である。而して我國に於ても亦經濟上教育上其他何れの方面にも行詰りたる現狀に處して、立身出世の途を開かんとするに付て、堅忍不拔不屈不撓の意思を以て第一の要件と爲すことは更に辨明を要せぬ所であります。尤も諸子は此等の教訓を求むるに付て、敢て外國の學者又は實際家の言行を尋ぬる心要なく、明治大正兩陛下の御詔勅を熟讀味解すれば足るのであつて、只之を現實に履踐することが肝要であるのであります。

更に諸子が內地に於ける就職難又は生活苦の爲めに志を伸ぶること能はざるに於ては、幸に滿蒙の新天地に於て有爲の青年を歡迎するを見るのである。實に男子到る處青山あり、徒に內地に屈托するを要せんやと言はざるを得ないのであつて、須らく諸子の熟慮と發奮とを切望して已まないのであります。

第二に諸子は常に誠實を守り、所與の職務に忠實なることを要する。

意思が如何に強固であつても、意思其のものは本來盲目であつて、是非善惡正邪曲直を辨別する力なきものである。左れば意思を規律し指導する道德上の原則を忘却無視するときは、其人の言行が非惡邪曲に陷り一身一家を傷ふのみならず、國家社會を害するに至るは近頃餘りに多く見聞する事實であります。而して右の原則は種々の方面より觀察して區々に說明せられますけれども、現代社會の要求殊に實業界の要請に照らして考究するときは、結局誠實を確守することに歸着するのであります。

明治大帝の下されました軍人勅諭の末文に於て、心誠ならざれば如何なる嘉言も善行も皆うわべの裝飾にて何の用にかは立つべき、心だに誠あれば何事も成るものぞかし云々と懇諭せられてあります。然るに今日我が社會の通弊は、教育の普及と共に著しく民衆の才知と感情との發展を示したけれども、又著しく眞面目なる氣質を失ひ、心の誠を缺くに至つたことに存します。尤も誠其のものの意義は口に之を說明し難く、寧ろ各人自ら體驗に依りて之を諒解すべきであるけれども、其の反對觀念が不眞面目であり虛僞であり又は欺瞞であることに氣付くなれば、何人も容易に誠其のものが共同生活の關係に於て、將た又各自の生活に取りて最も重要の主德であることを知覺する筈であります。然るに昨年の卒業式に於て特に誠告せし如く、恰も其の當時市役所の主催に係る職業紹介懇談會に於て、實業家諸氏より深く注意を促されたる一點は、近年の卒業生が兎角職務に誠實ならず、不熱心であり辛抱足らずであるに拘はらず、報酬手當其の他從業時間等に付ては種々の要求を提出するが故に、之を採用し又之を引立つる上に於て、却て本人の不利益に歸すること多しとのことで在つた。左れば諸子は能く此の點に注意し、既に職に在ると今より職を求められるとを問はず、一層誠實を守りて職務に忠實熱心なるべき覺悟を有せらるることを切望致します。

第三には諸子が今後絕へず知識の補充に留意し努力することを要する。誠實を守ることに付て孔子の致知格物說に依れば、心を正ふし意を誠にせんと欲せば先づ知を致すに在りとするけれども、實際に於ては知者にして不誠實なる者あり、又知りながら惡事を爲す者少からざるに因り、孔子の見解も亦至れり盡せりと言ふことを得ないのである。乍併道理を解せず事理を辨ずること能はざるが故に、迷惑懷疑の爲めに心の誠を失ふに至るは普通の狀態であるから、一般通則としては心を誠ならしめんとするに付ては、能く道理を解し事理を辨ずることを要し、從て常識を養ふと共に絕へず學識を補充することを要するは當然の事理である。夫故に諸子は誠を守持する上に於ても絕へず知識を養成補足することを要し、殊に日進月歩の活社會に於て競爭場裏の落伍者たることを避けんとするに付て、常に學識の補充に努力することを要するは自明の事理であります。然るに卒業後は兎角油斷勝と爲り、一通りの專門的知識を以て滿足し、或は之を誇負して其の補足に注意せず、不知不識の間に時代後れの人物と爲り、終に落伍失職の悲境に陷る者少からざるは誠に痛嘆に堪へざる所であります。左れば諸子は決して今日の卒業を以て滿足することなく、社會の進歩と共に常に知識の補充に注意せらるることを切望して已まないのであります。

今や諸子を校門より送り出すに當り、一喜一憂悲喜交々至るの感を禁ずること能はないのである。諸子が後日成功の域に達して名を揚げ身を立つるに至れば、之を聞知して衷心より歡喜する者の內に、必ず本日最後の苦言を呈したる學長其のものが加はり居ることを念頭に思ひ出されんことを切望致します。乃ち諸子の前途を祝福して送別の辭と爲します。

（本文は三月二十日天六學舍に於ける卒業式の學長式辭を摘錄したものであります）

日本民謡主潮概論（二）

校友　藤本浩一

新興日本民謡

新興民謡の黎明期

明治の大半は日本民謡の混沌期である。古典の群星は光茫既に淡く、雞鳴しきりなれども新生の太陽は未だ昇らず、薄明の空に漂ふ曉雲の如く輝かしい未來を約束しつゝ遂に燦たる光彩を放つには至らなかつた。

明治末期から大正初期へ、詩はやうやく生硬なる雅調の定型律を脱して、自由律の提唱、口語詩の抬頭により、新生面を展開しようとする時、デモクラシー思想の普及と共に農民勞働者等下層階級にある大衆が社會的勢力を擴大し、凡ての藝術は此新興階級を中心に動かんとする機運に向つて來たのである。

此時代的背景の下に、野の聲、民の聲としての民謡が、農民、勞働者大衆の感情を大衆の日用語で、大衆自らの聲に表現しようとする詩風が自由詩人の間に派生し、大衆藝術の一翼として次第に勢力を獲得するに至つたのである。現代民謡の三主流の源泉たる野口雨情、北原白秋、白鳥省吾等は此建設期の先驅者にして野口氏は涙もろい感傷的な情緒を捉へ得て傳統的人情を唄ふに最も勝れ、北原氏は明るい近代感情の奔放を自由に歌ふ特色を有し、白鳥氏は農土を中心として人道主義的な理想を唄ふ重厚、鈍重な歌に長じてゐる

之等の主流を中心に最近十ヶ年間の日本民謡は諸種の傾向を派生しつゝ今や世界に比類なき大民謡時代を現出しようとしつゝある。私は爰に其大勢を說くに先達ち黎明期の發展過程を三段にわけて、その特質を摘出しておきたい。

第一期　山田美妙、齋藤緑雨等の試作時代から明治卅八年野口雨情が日本最初の新民謡集『枯草』を出版する迄、之は新興民謡の黎明以前で其發生を自然發生と見るよりも、當時の詩人を支配せるロマンチシズムの影響下にあつてスコットランドの民謡詩人ロバート・バーンズなどの詩風の模倣と見るが正しく、其反映極めて濃厚なることを知ることが出來る。

第二期　詩壇に自由詩が提唱せられ、口語詩運動の勃發せる明治末期から大正大震災頃迄、新民謡の黎明期、野口、北原、西條氏等を中心とする童謡運動の成長に伴ふ新民謡の萠芽時代、其發生はやゝ自然的ではあれ、尙指導的地位にある既成詩人の獨占するところで、『生まれた民謡』とは云ひ得ない。

第三期　は爾後今日に至る民謡詩人の輩出期、民謡がやうやく本領を發揮して大衆層へ浸潤してゆく時代である。昭和二年、民謡專門の詩誌『民謡詩人』發刊以後、其普及と發達は躍進的で現在創作されつゝある民謡は雜誌に現はるものゝみで一ヶ月一千餘、刊行される民謡集が平均一年五十册、同人雜誌が數十、作曲發表さるものが毎月十數篇、少くとも此數字の示す量的盛大は古今を通じ世界に亘つて恐らく其比を見ないのである。遺憾乍らこゝに一々その詩の引用をゆるす頁を持たないので、之等の內容を具體的に示し得ないが極めて概括的にその特質を究めてみよう。

新興民謡の特質

おしよろ高島
およびもないが
せめて歌棄
磯谷まで

愛人を慕ふて　はる〳〵交通不便の越後路から蝦夷地松前迄獨り旅して訪ね渡つた一女性が、尋ぬる人は既に其地を去つて熊の居るてふ奥山に住むと云ふ、而も其地は女人禁制と聞いて悲愁の想ひ遣る方なく、狂

へる悶を追分の悲調に込めて唄つたと云ふ、之は松前追分の代表的歌詞である。此一聯の咏嘆的な哀愁は舊い日本民謠の特質であつた。封建治下の權力と、宗教と、經濟力と三つの強い制縛の裡に、彼等の美は屈從、諦め、哀願などで、その感情の表現さるゝ民謠に暗い哀傷をそゝるのは必然であり、

庄屋の内儀の
紅絹裏小袖
村の小作の
血の涙

と云ふが如き反抗的な唄を見ることはむしろ異例と云はなければならない。即過去の民謠は虐げられる被支配者の悲しい哀訴の聲であり、淋しい諦めに泣く弱者の嘆息であり、その形式表現のリズムにしても淡く弱々たるものがあつて、民謠とさへ云へばそれ自身既に哀調を帶びたものゝ如く考へられることは獨り日本にとゞまらず凡ゆる國土に其例を求め得るのである。

然し、現代の民謠は時代思潮の大影響を受けて根本的に變りつゝある。

形式的には機械文明の洗禮を受け、内面的には資本主義への抗爭がある。極めて序々に――ではあるけれども民謠主潮は大きく動いてゐるのを知る。私はこゝに新興日本民謠詩人三十數名の著作集から一千篇の作品を抽き、就て實驗の結果慨括的には三つの異なる方面、或は種類を知ることが出來た。

一、民族の智的活動を表現する社會意識。
二、民族の情的活動を表現する生活感情。
三、鄉土の誇りを高潮せる鄉土民謠。

勿論極めて複雜な内容を持つ個人の感情表現を嚴密なカテゴリーに容れることは危險ではあるが、大體の要素をそれらの中から分析すると次に示す指數を得たのである。

現代民謠の要素

A、主觀	主知	階級意識	現實哀訴	七〇
			鬪爭意志	四二
	主情	生活態度	享樂	二二
			諦觀	三六
			諦念	七四
		生活感情	旅愁	四四
			述懷	四七
			愛懷	二二
			愁	二三
B、客觀	抒景	田園		八〇
		山地		二〇
		海邊		五〇
		都會		四〇
		其他所		四二
		合計		一〇〇〇

之によつても知り得る如く、たとへ數字的に小數なりとは云へ、階級意識を確かに強く把握しつゝある現代大衆の唄ふ可き唄にそのイデオロギーを反映することは必然であり、明治以前の民謠に對して最も異色ある特質である。

新興民謠の鄉土性

民謠とは、かくれたる、又現はれたる民族意識の發現である。人格的には個性、空間的には鄉土性のあるところに民謠の本質が認められる。過去の民謠は後者を強く、現代民謠は前者を強く持つてゐる。たとへば秋田地方のおばこ節は秋田、庄内を中心に榮へたれども四國九州に唄はれることは恐らくなかつたであらうと考へられる。然し明治の終りから大正昭和に亘つては丹波の民謠デッカンショ節が東京に移つて全國に書生節として傳播せるを初めとし、山陰の舟唄『安來節』や『關の五本松』が一時全國の流行歌となり、最近では『串本節』『おけさ節』等がその後を受けて榮えたことは衆知の事實であるが、それ等の歌はすぐ又全國に影うすれて各の鄉土に歸り再び鄉土人の間にのみ古典として支持せられつゝある現狀である。

鄉土を持たない民謠にはその生命の永遠性がない。現代民謠の流行性を多分に持つてゐながら永續しない一因は大きく此處に存するのである。交通の發達が鄉土色を平均し、ラヂオとレコードの普及が完全に地理的距離を除去し了へて今民謠は全然鄉土を失つてゐる。しかも民謠は確固たる鄉土色なしにその生命を保ち得ないとするならば、將來遂に滅び行く可き

性質のものであるのか？ 永い歴史の示すところによれば民族の生活のある所、民謡を持たぬ國土はない。新興民謡は地理的郷土は喪失したけれども、それにもまして廣く強い民族的郷土を有つて其共通社會に存在を明かにしようとする傾向を見ることが出來るのである。 即古典民謡に於ては『よさこい節』は土佐のもの、『どつさり節』は隱岐のものとして其郷土内にとゞまつたものが、新興民謡に於ては『△△節』は漁師のもの、『××節』は工夫の唄とそれぞれの職業或はソサエテイを郷土として其中に共感共鳴を高め生長するものとして信ぜられ、新興民謡の眞價を發揮し得るのは此時なりと私は思ふ。 かゝる見地より見て新興民謡の擬古典的地方小唄等は其數の增加に逆比例して其存在範圍を縮少し、遂に自滅に赴くものと考へられる。 尙又『出船の港』や『鉾をおきめて』等の如く漁師の生活を歌つても、それが眞の生活者、漁夫や水夫に唄はれないで學生や音樂家のみに唄はれるのは、眞の生活感情や眞の言葉、眞のリズム（此場合には特に呼吸）を捉へ得ないがためであつて結局藝術至上主義的見地から勝れた歌であり得ても『生命ある民謡』ではあり得ない。 漁夫にとつては他の社會の唄である。 郷土を持たない此種の歌は早晩滅びる運命を持つてゐる。 民謡は本質的には其生活者中に生る可きものであり、假令作詩を專門とする詩人に歌はれるものとしても、十分其生活を理解し、感情を會得して眞にその社會、民族の代辯人として、民族共通の主觀によつて歌はれない限り、眞の民謡としての生命はない。 斯く考へて今日生産されつゝある大量の創作民謡を見渡す時、それは餘りに非民謡的な、本質を離れた民謡であると云はざるを得ないのである。

新興民謡の音樂的要素

太古、無文時代の我々の祖先が、その美的感情を保存傳播するためにメロデイを唯一を手段として口から口へ傳唱した。 之はひとり日本に限らず凡ゆる文學の原始形態であり、我國に於ける此方法は奈良朝時代の文字傳來迄續いてゐる。 その傳唱による歌謡保存の不便から自然と多くの陶汰を受け、傳はるものゝ數には自らなる制限の生ずることは必要であり、適者生存の理法に依つて殘存せるものは少くともその民族の最上のものと察知し得るのである。 從つて古事記日本書紀に傳はる歌は多しと雖も强記の人ならば悉く暗んずるに至難ではない。

けれども一度文字が輸入せられて言語保存の便法を知るや文學形式は異常な勢で發展し、文字の普及に基く歌謡の普及と發達は遂に永い歴史を區切つて音樂的要素を脫落し、『唄はれざる歌』が獨立文學として民衆の手を離れ、所謂『歌人』に獨占せられて萬葉以後の歌壇を形成せることは既に衆知の事實である。 此歴史上の事實の前に、 新民謡の發達過程を對比する時、日本詩歌發達史上の一大エポックたる萬葉時代と餘りによくにた趨勢を發見せしめられるのである。

且ては無文に等しい土民百姓の間に發生して單なる野の唄、山の唄としての民謡たりし時代、そのメロデイの數にも自らなる制限があり、詩形發達上にも極めて狹い制約があつた。 けれども土民百姓の名に薄遇久しうせられたる封建社會から明治維新によつて平等一律の待遇を受け、産業發達に伴ふ生活向上から文化の恩惠をも等しく受け得る時代となるや、農土の中から世に呼び掛くる詩人あり、外から入つて農土を唄ふ詩人あり、民の聲としての唄がやうやく世人の耳に『一つの藝術』として響く時代となり內容形式共に近代文明に影響せられて一大發展をなしつゝある。 即且て民衆の美的感情の文學的表現が原始的な傳唱歌謡に限られてゐたものが、明治以後の文學普及によつて文學的表現法を體得し、萬葉時代と等しく口から筆へ、聲から文字へ推移しつゝあるのである。同時に民族的感情から個人的感情へ song から poem に向上し民謡そのものゝ本質から離脫するかの如くに見られるのである。 而して民衆の唄から生長せる現代民謡は再び民衆を唄ひ乍らもその人々を離れて詩人の獨占するところとなり、藝術的には益々向上して日

本詩歌史上に一形を加へるものと信ぜられる。徳川時代の市民階級からは民衆文學の一形式として俳句が生れ、資本主義社會と發達を同じうして民衆に諦觀と沒我への徹入を敎へた。資本主義は今沒落への過程にあり、此時新興プロレタリアートの構成する社會に生る可き詩形は何であるのか？ 恐らくそれは民謠を措いてなからうと信ずる。而もそれは現在早くも其分岐を示しつゝある poem と song への二方向に隔離されてそれ〴〵の持つ特性を發揮する、即ち前者は高き詩的精神によつて大衆をよりよき生活に指導する理想、或は未來性を持ち後者はそれの持つポピュラリテイを利して大衆の慰藉と激勵を與へる現實性によつて共によき大衆藝術たり得るであらうと考へられる。然し song としての民謠が完全に其使命を果すためには現代民謠作曲家の大轉換を俟たなければならない。民謠としての作曲さるゝ現代歌曲には濃厚なる時代的ポピュラリテイは持つてゐても民族的ポピュラリテイ、特に新興階級のそれを持つものは殆んど見られないのである。であるから新興民謠の音樂的要素に就て我々の到達する結論は我々の期待する音樂家の現はれない限り、讀む民謠として、少くとも現代民謠は一度音樂から獨立した文學形式の中に突入するより外に道はないと云ふことである。

新興民謠の詩形

現在各地に殘存する古典民謠の詩形は僅かの例外を除いて徳川時代に發源せる七七七五調の二十六音綴形の定律と、普通口說歌として呼ばれる舞踏の伴唱としての物語風の七五調連續無限形の二種に大別され、尙後者は曲調によつて殆んど足利時代の今樣に見る如き七五調四行一聯定形律であつて別の曲調への移殖は容易に行はれるのである。例へば下總の舟唄

泣いてくれるな出船のさきで
棹も艪櫂も手につかぬ

と云ふ歌詞を追分節で唄ふことも おけさ節で唄ふことも出來るのである。即過去の民謠は殆んど二十六音綴の定形律であり、各一章毎に獨立してゐるのである。

之に反して現代の新興民謠の詩形は非常に自由であり多樣である。或民謠を他の方の曲で歌ふ場合は不可能であることが通例であり、古典のそれとは正逆である。今こゝに其一例として二三の例を擧げるならば

お　才　（明治）

男女居てさへ筑波の山に
霧がかかれば寂しいもの
佐渡の小島の夕浪千鳥
彌彦の風の寒からむ　（以下七聯略）

——横瀨夜雨——

煙草の花　（大正）

お葛嫁さま
煙草の花は
元の男の畑に咲いた
お葛嫁さま
もう諦めた
何も緣だと　もう諦めた
切れた障子の
穴から見たら
後向きして　絲繰りしてる

——野口雨情——

茶きり節　（昭和）

帶はお茶の葉、鶯染よ
赤い襷の
そろた襷の　ほどのよさ
ちやつきりちやつきりちやつきりよ
きやアるが啼くんで雨づらよ

——北原白秋——

開墾人の唄（昭和）

煙いぞ煙いぞ
青空も煙いぞ
朝日も霞むぞ
けむい筈だよ
山燒く日だよ

刈れや集めろ
芒も茨も
枯木も生木も
どんどと燃やせ

山は千年
草木が生えた
おれは今日來て
火の旗あげる

（以下四聯略）

——白鳥省吾——

ベルト・イロデイ

あゝ　酷使せられリア
　シヤフトでさへも
　磨れてメタルに
　火を放つ
なアそれ　兄弟

火を放つ

——藤本浩一——

『お才』に於ける文語めいた詩調は『煙草の花』になつて完全に日用口語化したけれども、これ等の凝古調にすら古典民謠とは根本的な相違がある。古典のそれは各節獨立して他節に因果關係なく、現代民謠は四行五行と區切られても二十三十行の全篇一貫して一つの歌となるのである。茶きり節は新地方小唄の一形式として擧げたもので現代民謠にも地方小唄は多く、他節に連續しない。『開墾人の唄』は且て讀む民謠を提唱創作しつゝある白鳥氏の作である。各節行の切り方を異にし自由詩的であることに注目したい。『ベルト・メロデイ』は筆者の提唱せる新勞働民謠、用語、リズム、其他を『お才』に比して新詩形發達の跡を思ふ可きである。

結　論

洋々として果てしない大洋に風さへなければ雲は動かず、浪は立たず、たゞはるかに寂として沈默する美しい一幅の畫面を展開する。けれども一度天を覆ふて奔る激しい風の襲來あらば浪は大きくうねりを生じて高く低く悶えうごめき、安定を得ようとして岸に向つて突進する。若しその運動をさへぎる巖の妨害あらば忽ち跳つて上つて強く高く喊聲を擧げ、空中に燦たる紅霓を描く。彼も美ならば之も美である。たゞその時の自然の働きに相違があるばかりで何れを採り、何れを棄つるかは各個々人の自由である。

とは云へ若し藝術の價値を人生のために求むるならば我等の民謠は常に其民族的集團の精神を反映するのが眞實であり、且又しかくなされて來たのである。

經濟恐慌にともなふ失業者群の激增、農村の疲弊、脅かされる生活の前に明日の自分を思ひ惱む小商人、對立する階級鬪爭に去就を定め兼ねたインテリゲンチヤの焦悴、其先端に明日の生活を鬪ひとらんとする先驅者の受難、社會全體が急テムポに動搖しつゝある今日の現代人の眞の民謠は現世上に流行せるジヤズ小唄、等ではなくてリズムの强勢、用語の强力、テムポの急速、色調の明確等新興民族の熱意活力を如實に表現し得るものであつて その內容も相容れぬ理想現實の相打つ響、その火華であり開放への絕叫である可きである。ジヤナリズムの强制と大衆の無自覺に禍せられて現代民謠は今尙多く邪道を彷徨しつゝありと雖も眞の我々の民謠時代は正に正しく來らんとすることを今明かに知るのである。

× × × × × ×

價値不必要論

——Gustav Cassel の價格論——

大學院學生
經濟學士　佐伯三郎

……目　次……

(一)　序　題
(二)　不必要なる價値論
(三)　價格論の提唱
(四)　價値論から價格論へ
(五)　價格の形成過程
(六)　稀少性理論と機能
(七)　結　論

(一)　序　題

英國正統學派の建設者であるAdam Smith (1723—1790) が千古不朽の名著と稱せられる富國論(Wealth of Nations, 1776) に於て、中世暗黑時代に於ける價値論を倫理道德から引離して、獨立的なる科學的なる純理經濟學の視野に於て檢討したる、所云價値論 (theory of value) を提唱して以來、價値論は經濟學史上最も華々しき論爭の過程を經過し來つた。

即ち、大きく價値論上の華々しき論戰史を概括的に見る時、前言したAdam Smith を開拓者として Davad Ricardo(1772—1823)Thomas Robert Malthus(1766—1834) によつて發展し John Sturt Mill (1806—1873) によつて完成されたる生產費價値學說 (Cost theory of Value) の潮流あり。

他方に、J. S. Mill よつて生產費價値論の最後の完成を見て耀々たる名聲を經濟學論上に印しつゝあつた時、誰ぞ知るその耀々たる名聲を奪はむとする一派の生れしを。然も驚く可しその一派が時めく生產費價値論の胎內から生れ、その學說の中から導き出されたのである。

殆んど同時に即ち一八七一年を前後してDon Walras(佛) Stanley Jevons (英)Karl Menger(奧) が出でて、生產費價値說を批判して、生產費說の云ふ如く財の價値はその生產に參與した諸要素の價値によつて定るのではない。財の價値は人間の欲望に照應する効用である。然もその限界効用(marginal utility,Grenznutzen) が價値を定めるとなす限界効用學說 (Theory of Marginal Utility, Grenznutzen Theorie) を說いたこの學說を說けるものの中奧國の經濟學者Karl Menger (1840—1921) は、F. V. Wieser(1851—) E. Sax (1845—) の如き少き後繼者を得て、內容的には深く經濟學方法論の基礎の上に立ち、外觀的には近世資本主義經濟の潮に乘ることを忘れず、遂にBöem-Bawerk (1851—1914) に至つて現代經濟學の最も榮ある地位を占むるに至つた。

價値論を廻る二つの潮流は華々しき論爭の過程の下に、現代經濟學の指導概念として强力なる支配的地位を獲得し來つた。然も歷史は轉開する。經濟學の進歩と發展とは、生產費價値說から、限界効用價値說へ更にその兩者の持つ意味をも否定せんとする價値不必要論(Non-Value theory)の擡頭を見るに至つた。この論者に現代に於ては西歐に Gustav Cassel; Karl Ditzel, Robert Riefmann; あり、我國に於ては小泉信三氏、土方博士等がある。

上記の價値不必要論(Non-Value theory)を說く論者の中、Stockholm 大學の經濟學教授Gustav Cassel氏は强張して現代の進步的經濟に於て價値論の意味なき論陣を張り、一步を進めて彼の經濟學の學的構成から價値論を拔き去つて、敢然價格論 (Theory of price) を以つて之に代へ獨持の價格經濟學を樹立せんとしてゐる。故にカッセル教授の學說を捉へて價値不必要論の建前と價格經濟學(Price Economics) の提唱を見よう。

(二)　不必要なる價値論

近世の經濟學誕生以來、輝ける經濟學者のものせる不朽の名著に於ては、その全卷の精髓として榮譽の擔當者たる重要なる中樞部分は價値論にあつた。かゝる意義を有つ價値論は一朝一夕にしてその存在の否定

を受く可きものではない。にも不拘この價値不必要論の擡頭にはそれ丈の理由に於ても何等かの根據ある理論的基礎の上に立たねばならぬ。故にこの論者の主張を見るに

（一）從來說明され來つた價値論の內在的矛盾を指摘して生產費說(Cost theory of Value)と限界効用說(Grenznutzen Theory)の無價値なるを貫かんとする論者、その中には右兩學說論爭の歷史的展開を利用して一律に說き難き循環說なりと否定し去るを以つて滿足せるものと

（二）現在の進步的經濟に於ては、貨幣(Money Geld)を中心とする價格經濟(Money Economy)の支配を認識し、貨幣を捨象したる價値論への檢討を不必要とする論者、即ち價格經濟社會に於ては、價値論の存在は無意味であつて、第一義的に直接に價格論を打立てゝ之を嚮導概念として經濟學を樹立せんとする者

の二者に大別することが出來る。

前者に屬するものに Karl Ditzel; Robert Riefnnam 小泉信三氏あり後者に屬するものとして G. Cassel氏及土方博士がある。今、G. Cassel の社會經濟學(Theorische Sozialökonomie)の序文に從へば、①若し我々の經濟學が舊來の然も不絕增加する經濟理論上の過去の底荷全部を永久に引攣つて行かなければならぬとすれば、我々の經濟學は煩苦に堪へ難いものである。又②科學が進步するためには、已に本質的に重要さを失つた舊來の論爭は一切之を放拋して、新研究の餘地を開かねばならぬ。

之を從來の經濟學研究法について考察するに、斯學の嚮導概念として先つ價値論(theory of Value)を研究して下地を作り、次に價格論(Theory of Price)を檢討するが常道とされ來つた。乍然斯學研究者の誰でも察知し得る如く、價値論はしかし深淵である。經濟學の價値が、價値論の理論付如何にかゝつてゐた從來の行方に於ては、その現實の經濟を說明するに役立たない、形而上學的な領域に於て、所云眞空管の中で研究された。

G. Cassel は之を以つて過去の經濟學者が③斯學の研究對象を誤れる軌道の中に引入れてしまつたと見る。そしてそは、非實證的であり且つ形而上學的なものであつて、進步的經濟學の採る建前ではない。進步的經濟學(Progresive Economics)は、現實の經濟生活を對象とし、その背後に潛在的に動く原理を把握するにある。

經濟學建設のかゝる建前からは、過去の謬論を捨象し新理論への理論的建築に取りかゝらねばならぬ。現實の經濟生活は、凡ゆる物が貨幣によつて計量されたる價格經濟(Price Economy)である。そこでは、貨幣を拔きすて物と物との直接交換される社會を對象とする價値論は迂廻的であつて、第二義的である。

即ち凡ゆる經濟問題は、價値經濟(Value Economy)に於て價値に結び付けられた如く、價格經濟(Price Economy)に於ては價格と結び付く。そこでは、架空的なる價値論は、實際的現實的なる價格論が先行する。その場合、我々は抽象的なる價値論をすて、數量的なる實際的なる價格論をとり、凡ゆる場合に貨幣的單位が導き入れられたる價格を對象とする。

實際我々の經濟學は、④本質的に數量的(quantitative)たる可きものである。それ故に注意に値する凡ゆるものゝ數量的概念(quantitative conception)を得るようにしなければならぬ。かゝる時、價値論は抽象的不確實であつて曖昧である。我々はこれを最初から數量的に確定した貨幣概念(Mon ey Conception)を導き入れたる價格論を以てしなければならぬ。その時現實の價格經濟の本質を把握し得よう。

（1）G. Cassel: Theoritische Sozialökonomie; vorwort.

（2）G. Cassel; The Theory of Social Economy, Vol. I. Preface.

（3）G. Cassel; Fundamental Thoughts in Economics; pp. 46—51

（4）G. Cassel; ibid p. 35.

（三）價値論から價格論

前述した如く舊來の經濟學說に於て①價値論が價格論に先行すべきであると云ふ觀念は、進步的經濟學に於て不必要であることが確かめられた。我々は現實の經濟生活を對象とし、そこに働きかける中心的なる價格理論を以つて研究し始める可きであつて、②特別の價値論を以つて始めなければならぬ理由は豪もない。

今 G. Cassel に從つて、くどい樣ではあるが從來の價値論を大略檢討するに。從來の經濟學に於ては、③經濟學の本質的對象として「價値」(Value, Wert)の概念を勝手に撰擇し、その概念の分析に斯學を引入れてしまつたのであるが、かゝる一面的なる對象の撰擇は、經濟學を非常に誤つた方向に向けてしまつた。

第一に、正統學派(Othdox school)の輝ける完成者であり、生産費價値論(Cost Theory of Value)の代表者 J. S. Mill の價値に對する定義に從へば④「一物の價値は、その所有が一般に購買し得可き商品に對して與へられる支配である」と。この價値に對する定義を研討するに、いかに曖昧であり且つ抽象的であつて、數量的明瞭さと確實さとを要求する價値論の說明として不適當であらう。

この定義を數量的表現を以つて確定し、貨幣單位を導き入れたる價格の概念に置き換へる時、J. S. Mill の云ふ所の價値とは、⑤「常に或る狀態の下で支拂はれる價格のことであつて」その不明瞭と曖昧さとから解き放たれる。

更に、J. S. Mill は⑥「凡ての物價が同時に騰貴し得ることはあるが、價値の一般的騰貴は、論理的に不可能である」との理由の下に、價値論は價格論に先立つて、それ自體として研究すべきであるとしてゐるが若し我々が現實の交換經濟に立入るならば、その研究對象が貨幣を伴ふ價格經濟となり、そこでは價格の問題が先に立つ。

第二に、價値論を歷史的叙述に從つて二つに大別すれば生産費價値說と、限界効用學說であるが、この限界効用學說(Grenznutzen-Theorie)に於ては、「價値は人類の欲望を充足する効用である」と說明してそこには、効用の概念が基礎的要素として導き入れられ而してその程度が數字や、圖形によつて表示されるに至つた。

而し、この學說に於ては、價値論中にとり入れられた種々な數量や圖形を測定するための確定的單位について何等の顧慮も拂はれなかつた。若しこの場合貨幣を導き入れ確定的單位を以つて定めたる、價格の概念に置き換へるならば、その不明確な抽象的觀念の愚弄から引離されて、一層明瞭に理解されるであらう。

以上に於て明らかなる如く、從來の經濟學の根本的缺陷は、斯學を以つて神秘的なる形而上學的なるものとし、徒らに理論鬪爭に熱中にて或は援を哲學に乞ひ或は社會學に基礎をかりて現實の經濟社會から、非現實的なる抽象的價値の社會を對象として、容易に理解し難き困難なる學問としたことにある。

之は經濟學の精髓とまで目された、價値論に於て殊に甚だしく、生産費價値說に於ては「費用(Cost)」なる概念を、限界價値學說に於ては「効用」(Utility, Nutzen)なる概念を持ち來つて、抽象的に定義し、經濟學に於て最も必要とする、數量的明確さを缺いたのである。かくて進步的經濟學に於ては、この缺陷をすてゝ現實的實際的なる數量的單位をもつ價格によつて說明せんとするのである。

(1) G. Cassel; Fundamental Thoughts in Economics, p. 46.
(2) G. Cassel; The Nature and Necessity of Interest, p. 69.
(3) J. S. Mill; Principles of Political Economy, p. 437.
(4) J. S. Mill; ibid, pp. 436—441.
(5) G. Cassel; ibid, p. 50
(6) G. Cassel; ibid, pp. 54—55

(四) 價格論の提唱

以上に於て、理論的に價格論に先行して、價値論の研究が必要であるとの觀念が取り去ることが出來た。本來經濟學は、現實の經濟生活を究明すると云ふことにある。この意味に於て、我々の研究をあるがまゝの現實の經濟生活の描寫に向けなければならぬ。①その時貨幣單位を用ひずして、別個の價値論を立てゝ、その研究に沒頭する代りに、貨幣單位を導き入れたる價格論を打立てることが至當であらう。

かくして價値論は、價格論に置き換へられ價格論を以つて、進步的經濟學の指導概念とする。かくて價格論がかゝる地位を得るや、從來價値論が占めてゐた、經濟學上の全役割を果さねばならぬ。即ちそは一方に於て、經濟學中、交換論(Theory of Exchange)として知られてゐた、財(Goods)の價格は如何にして互に相對的に決定せられるやの全過程及び分配論(Theory of Distribution)として知られてゐた、人々が生産に對して寄與した價格の割合に應じて、價格の分配として定められる道行きが說明されねばならぬ。

そこでは、價値は相互に交換され、價値は應分に分配されるのではなくて、價格は相互に交換され、價格は應分に分配されるのである。交換の問題に於ては、價格の分析から始められ、分配に於ては、價格の按分として考へられるのである。即ち、我々の現實の經濟生活が價格に集結せられて、相互に價格を交換し、人々の所得は、それが生産に貢獻した價格によつて定まると見るから、經濟學の中心をなす交換及分配の總過程が價格論に抱括されるのである。

特に重要なるは、②價格論が價値論に代つて、財の價格決定の道行きを說明し、完成財たる消費財のみならず、中間生產財並に生產の基礎的諸要素の價格決定の總過程が說明されねばならぬ。この要求が完全に充たされぬ時進步的經濟學の指導概念たる、價格論の地位が確立されたと云ひ得ぬ譯である。こゝでは價格論の使命と任務が完全に如何にして果されるかゞ問題となる。

他方、實際我々の現實の經濟生活に於て、價格が一般財に對して一定の單位に定められない時、その需要と供給とは確定されない。凡ゆる財貨の價格が確定的に定められたる時に、幾何を供給すべきか、又幾何を需要さる可きかが確定され、こゝに經濟生活が行ひ得るのである。從つて、凡ゆる財の一切の需要と供給とは、價格決定と云ふ問題に結びついて考察せられる重要なる問題である。

かゝる意味に於て、③價格論は財の需要及財の供給の價格に對する依存を表現する機能を研究することゝなり、かくて價格の決定に關する研究は、價格均衡狀態(Equilibrium of Prices)に於ける安定の條件に關する研究を定め、而る後、價格の不均衡狀態(Unequilibrium of Prices)の研究即ち物價格變動(Fluctuations of Prices)の諸條件の研究を定めるのである。

この價格均衡狀態に於ける安定に關する諸條件の研究は、やがて同時的に、價格不均衡狀態の研究の諸條件を確定する。即ち④一財の側に於ける價格の變化が、反對の方向に於ける需要の或は、供給の變化なる形式に於て表れる反動を喚起し、價格をして元の水準に落付かしむると云ふ價格決定の一方程式組織(System of Equations)を形成する。

この一方式組織は、價格論に於ては極めて重要なる形式であり、現在の經濟機構に於ては最も重要なる問題への鍵であると云へよう。そは、從來說かれてゐたる、相對的價格決定の問題即ち、Pricerising effects は Pricedepressing effects によつて照應せねばならぬと云ふ、原理への新しき道行きを示したものである。

かゝる考へ方に於ては、そは或は從來經濟學に於て說かれ來つた、價格の需要供給說(Prices of Demand and Supply Theory)と何等異つたものではないとの批難が起るかも知れぬ。然しそれだからと云つて、如上の價格に關する一方程式組織が無意義ではなく、却つて需要供給說に新しき價格論的說明の衣服を纏はしむることによつて、次には後述するその背後に潛む根本原理なる稀少性理論(Scarcity principles)からの必然的歸結によつて、價格論上の意義を失ふものではない。

更に、價格論を提唱するに際して、見逃すことの出來ない根本的理由は、資本利子論(Theory of Capital Interest)の說明をなす場合に橫つてゐる。即ち、價値論の建前を固守する奧太利學派の E. V. Böhm Bawerk によれば、資本の利子(Capital Interest)は、將來財と現在財との交換に於て支拂はれる打步であるとする。この說明に於ては、將來財と現在財に比して低く評價されると云ふ前提の下にある。

乍而、⑤この將來財(Future Goods)に對する一般的過少評價(General Under Valuation)と云ふ假定は、同時に將來財への一般的過大評價(General Overvaluation)をも假定し得ることゝなり、その基礎に於て誤つてゐる。即ち、この建前に於てはそは一個人の經濟生活に於ても、社會全體の經濟生活に於ても、利子が得られなければ、彼等の富を消費し盡すと云ふ假想を考へ得られるからである。

將來財への過少評價は却つて、吾人の進步的經濟學に於ける、利子への依存と云ふ形式によつて始めてよく說明し得る觀念であり、現在財と將來財との交換市場は、利子のみによつて均衡狀態に於かれる。即ち利子の變動は、他の側に於ける反動によつて、元の水準に落付くのであつて、利子論の研究は、この變動の依存形式を明にするにある。

次には、資本利子の根本的說明に移り行きそこでは⑥利子は生產の不可缺の要素としての資本に對して支拂ふ價格として見る。この際、生產行程に於ては、資本の必要が、根本的要素をなして居り、從つて資本を一定期間使用する權利の報酬として利子を支拂ふのである。

從つて、こゝに於ては、資本の稀少性なる原則によつて、資本の供給が需要に對する關係に於て利子の變動を知り得るのであり、こは、實際我々の經濟市場に於けるありのまゝの現象を、そのまゝ記述し得ることとなり、誤られ易い、非實證的にして抽象的なる、利子の說明に對して、全く驚かされる程、勝つて居ることを見出すであらう。

G. Cassel の價格論詳しく云へば、本項及次項の價格形成過程の問題については、諸多の學者によつて贊否兩論の存する所であるが、Knight は The Quarterly Journal of Economic; XXXVI, 1922, p. 150. に於て「カッセル」の價格形形機構は全卷の精

―(第二七頁中段へ續く)―

學内報

卒業證書授與式

三月二十日午前十時より天六學舍講堂に於いて、專門部第四十四回、附屬關西甲種商業學校第十七回、附屬關西大學第二商業學校第七回卒業證書授與式、同日午後二時より千里山學舍威德館に於いて學部第八回卒業證書授與式並に大學豫科修了證書授與式を擧行した。本年度の卒業者數及び受賞者は左の通りである

卒業者數

法文學部法律學科	一六三名
同　政治學科	一八名
同　文學科哲學專攻科	三名
同　文學科英文學專攻科	二名
經濟學部經濟學科	四〇名
同　商業學科	一三名
專門部法律學科	二八三名
同　經濟學科	六六名
同　商業學科	一一四名
同　文學科國語漢文專攻科	二六名
同　文學科英語專攻科	二三名

學部卒業成績優良賞牌受賞者

法文學部法律學科　松村勘次

同　筒井國義

同　久松鹿治

同　武氏英二

同　山口清

同　伊集院賢

同　戒田敷一

同　田中勝治

經濟學部經濟學科

同　加古撤次郎

同　矢野榮

同　辻太作

專門部卒業成績優良賞牌受賞者

法律學科　安藤清

同　中川兼治

商業學科　中野達夫

專門部卒業成績佳良賞牌受賞者

法律學科　鮫島武次

同　中野匡

同　大浦信三

同　大段一太郎

同　稻垣由吉

同　池内武夫

經濟學科　松岡春雄

商業學科　岡本理一

同　南保茂一

同　岡野一郎

文學科國語漢文專攻科　三木重雄

同　小野貞一

大學豫科修了成績優良賞牌受賞者

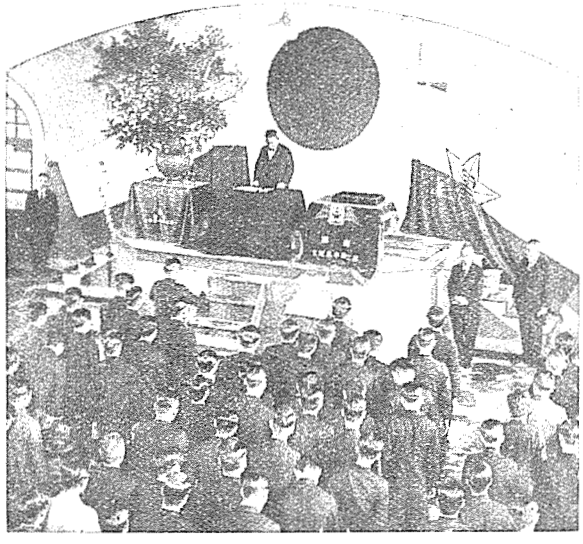
朝倉浩

押谷忠之

藤井久夫

小林良夫

浦田善之



當日の祝辭の主なるものを左に摘錄する。

文部大臣祝辭

卒業生諸子、諸子は研學其の功を積み、今や本學所定の課程を終へ、將に校門を出でて社會に立たんとす、國家の爲諸子の爲寔に慶賀に堪へず。

諸子が自今從事すべき方面必ずしも同じからざるべきも其の修得せる知識は、均しく現代の要求して已まざる所なり。諸子庶幾くは實務に當ると、進んで攻學に從ふとを問はず、恒に能く本學教養の趣旨を體し、益々人格の修養を積み、智能の研鑽を重ね、其の新鋭の意氣を傾注して大に力を國家社會の進運に致されんことを、一言を述べて祝辭とす

大阪府知事祝辭

本日茲に關西大學學部第八回竝に專門部第四十四回卒業證書授與の式典を擧行するに方り聊か所懷を述ふるは欣幸とする所なり

惟ふに當今我國の情勢は財界の不振思想界の混亂尙此の時に於て輟まず國民生活の基礎動もすれば動搖を來さんとす此の秋に際し諸子新に出でて社會の實務に就き豫て研鑽せる學理と練磨せる技術とを提げて時難を救ひ政治經濟實業各方面の革新を圖り以て國運の發展に貢獻せられむとするは吾人の最も意を强ふする所なり

抑々世界平和の大經は人類福祉の增進に在り而して國家の隆昌は國民士氣の作興に俟つ所なり諸子宜しく此に鑑み常に眼を大局に注ぎ外は世界の和平に寄與して人類共存共榮の實を擧ぐると共に內は國體の精華と淵源とに省み和衷奉公幾力一致以て國運をして彌々隆昌ならしめむことを期せらるべし

庶幾くば諸子今後益々思想を堅實にし不斷に身体を鍛へ時流を追はず時弊に倣はず富踏邁進以て本學教養の本旨に副ふ所あらむことを

一言叙べて祝辭とす

大阪市長祝辭

本日茲に本學第八回卒業證書授與式を擧行せらるゝに當り一言所懷を述ふるは欣快とする所なり顧れば本學創立以來校運年と共に昂り幾多の人材を敎養して邦家文運の進歩に貢獻せられたる所甚大なり之れ單り本大學の聲譽に止まらず實に邦家の爲欣賀措く能はざる所なり

惟ふに國家の隆昌は志操堅固にして學能に富む青年の活動に俟たざるべからず此の時に方り卒業生諸子は業を本學に受け深奥の學殖を極め將に出て社會の實務に就かんとす諸子の前途や多望なりと謂ふべし冀くば諸子各其志す所を伸びて至誠專に從ひ以て社會に寄し本學教育の本旨を完くせられんことを一言叙して祝辭とす

學部校友總代祝辭

本日關西大學學部第八回卒業證書授與式を擧行せらるるに當り茲に校友を代表して一言慶祝の意を表し得るは欣快に堪へざる所なり

諸君今や多年刻苦研鑽の功により大學に於ける各專門の學科を卒業して今日の榮譽を得たりと雖も學校に於ける修業の終は、世間に於ける就務の始なれば、其の榮譽と共に責任も亦大なりと謂ふべし。寔に世途は常に多難にして諸君の前途尙渺邈たり。而も文化は日に進み世態の變轉止むことなきに於ては、克く時運の進展に伴つて益々新たならんとするもの獨り諸君が覺悟と今後の努力に俟つべきのみ。

惟ふに千里山の地に大學部の建設を見しより十有餘年、近くは威德館の工を竣り、學運年と共に隆盛を致せり。諸君は今本學を出でらるゝと雖も諸君と本學との關係は永遠に密接にして、諸君の將來に於ける行動は直ちに以て本學の聲譽に反映するは言を俟たず。宜しく其の使命の重きに鑑み益々力を志す所に竭し、自らの向上を圖ると共に本學學風の顯揚に努められんことを。

些か所思を述べて祝辭となす。

專門部校友總代祝辭

卒業生諸君、諸君は多年螢雪の功により今日卒業證書を受けらる。生等校友の欣喜に堪へざる所なり。

惟ふに諸君が机上を離れて將に入らんとする現實の社會は渺邈嶇嶇たる不斷の試練場なり。現實に直面するとき往々にして机上の華想は破れ、實際の試練に遭ふて意氣頓に昂らざるもの世に其の例乏しからず。思想の變化著しく事物の進轉驚くべきものある時代に處して、眞に人生を享樂し、社會國家に貢獻せられんとせば、須く不撓不屈の精神の必要なるべきや言を俟たず。殊に方今國家の內外頗る多事、邦家が新進有爲の士に囑望する所亦大なり。諸君の前途固より洋々たりと雖も其の責や重且大なりと謂ふべし。

希くば諸君、自重黽勉以て本學敎養の趣旨を體し、一は邦家の爲、一は愛する母校の爲に各々其の素志の貫徹に邁進せられんことを。

一言具して祝辭となす。

學部卒業生總代答辭

本日私達のために學部第八回卒業證書授與式を擧行せられるに當り多數の朝野貴紳先輩諸彦の御臨席を忝ふし且つ學長閣下並びに來賓諸賢の御懇篤なる訓辭と御鄭重なる祝辭を賜はりましたことは私達の最も光榮とする所であります

顧みまするに私達が本學に入りましてから茲に數星霜其の間學德高き學長閣下始め諸先生の御懇切なる御指導と不斷の御薫陶によりまして私達菲才の身をもちまして今日卒業の榮譽を荷ふに至りましたことは私達卒業生一同の深く感謝する所であります

惟ひますに今や內外多事多難にして國民の覺悟と奮起を要すること切なるものがあります此の秋に方りて私達は本學を辭し實社會に出て多年の研鑽の實を擧げ以て是の難局の打開に方らんとするものであります然乍ら私達才駑鈍にして能く其の責を完ふし得るや疑懼なきを得ません唯上は

陛下奬學の聖旨を奉體しひいては學長閣下の御訓誨を遵守し夙夜精勵之の重任に堪へん覺悟であります

願くは先輩諸賢の御指導と諸先生並びに在學生諸子の御鞭韃に依りまして之の重責を盡くさせて戴きたいと存じます茲に卒業生を代表し聊か感謝と覺悟を述べて答辭と致します

專門部卒業生總代答辭

梅花馥郁たる本日生等專門部第四十四回卒業生の爲めに卒業證書授與の盛典を擧げられ多數朝野貴紳先輩諸彦の御貴臨を辱ふし學長閣下の懇篤なる御訓辭と來賓諸賢の優渥なる御祝辭を賜はる生等に取りて寔に身に餘る光榮にして感激措く能はざる所なり

回顧すれば生等本學に入りてより既に三星霜生等天性不敏にして淺學菲才なるに拘らず尙ほ且つ今日の榮譽を擔ふこれ一に學長閣下の薫陶の嚴正と敎職員各位の御敎導の懇切と光輝ある學風の薫化に因る所にして此の鴻恩生等肝に銘じて忘るる能はざる所何を以てか此の鴻恩に酬ひん

本學は既に創立以來五十年に垂んとす而して其間幾多國家有爲の人材を輩出せり生等幸にして此の榮ある學窓を巢立ち慈愛深き恩師の膝下を離れ濁流渦卷く社會に投じ各自の理想の彼岸に向ひて勇往邁進せんとす

顧つて邦家の現狀を攬觀するに內に於ては經濟界並に思想界に於て誠に憂慮すべきものあり外に於ては滿洲上海兩事變の勃發ありて之が圓滿解決を圖るべき對策の至難なるあり內憂外患交々至ると言ふも强ち過言と稱すること能はず

斯の如き多事多端なる秋に際し生等は邦家の爲めに粉骨碎身以て此の國難を打開し社會の平和を維持し以て邦家を泰山の易きに置くの覺悟を有せざるべからず然れども生等資性愚鈍學未だ淺く經驗に乏しく果して此の國難に善處してよく斯の如き重大なる責務を果し得るや頗る危惧の念なき能はずと雖も唯一意學長閣下を初め諸先生の不斷の懇切なる薫陶と光輝あり歷史ある健實なる本學の精神を體し且つ先輩諸彦の御指導御鞭韃に依り誠心以て邦家の爲めに微力を盡し本學の名聲を發揚し以て鴻恩の萬一に酬ひ本日の榮譽に背かざらんことを期す

茲に不肖僭越を顧みず專門部卒業生一同に代り聊か蕪辭を述べて謹んで答辭とす

入學試驗施行

本學年度入學試驗は左の通り施行した。

學　部　四月八日

大學豫科　四月五日及六日

專門部第一部　四月四日

專門部第二部　四月二日

定例協議員會

三月十七日午後五時より大阪ホテルに於いて定例協議員會を開催し、昭和七年度豫算その他を議決した

動　靜

賀屋　俊雄氏（敎授）　兵庫縣武庫郡精道村打出堀之內一九に轉居。

武藤　勇氏（前本學敎練敎官）　府下豐能郡豐中町大字新免一五五に轉居。

松廣　末松氏（庶務課）　府下三島郡吹田町大字串原三二二六に轉居。

神屋敬　民藏氏（學報課）　府下三島郡千里村千里山三六六（千里山住宅二五五號）に轉居。

山口　造酒氏（臺灣講師）昨年九月迄本學講師として敎鞭を執られ本學のために盡粹されたる山口造酒氏は豫て病氣療養中のところ藥石效なく三月二十六日永眠された。

校友彙報

校友會常議員會

三月十日午後六時より校友會常議員會を天六學舍會議室に開催、決議事項は左の通りである。

一、三月二十日卒業式當日午後五時より校友會總會並に懇親會を開催す。

二、當日新卒業生にして校友會出席者に對しては、專門部卒業生に限り學友會基本金より金貳圓宛を補助す。

因に當日の出席者次の如し。

糸島實太郎、入島治一、武田藏之助、內藤正剛、永田良雄、村上喜貞、安井榮三、近藤友房、關豐馬、清家唯一以上諸氏

校友會總會並懇親會

三月二十日學部第八回、專門部第四十四回卒業式終了後、午後五時より校友會總會並に懇親會を中之島中央公會堂階上大ホールに於いて開催した。

出席者は仁保會長を始め、新舊校友二百七十名、先づ餘興に興じて後開會、仁保會長は一場の挨拶をなし次いで常議員の改選に移る。改選については滿場一致を以て會長の指名に一任することゝなり、この議を終り一同卓につく宴進みデザート・コースに入るや還暦君仁保學長に懇請するところあり、學長も終に謠曲をうたへば、次は武田主事へと順番を廻す。武田主事は大學並に本會のために萬歳を三唱せんことを提唱して巧くこれを切り拔ける。かくて歡聲堂に滿ち頗る盛會にして午後八時半散會した。

校友會懇親會

當日決定した新常議員は左の通りである。

井波義吉、糸島實太郎、岩尾廉、池島源之丞、萩原敏隆、原田鹿太郎、西村勝太郎、栩木浩巖、大崎萬太郎、竹井小野右衛門、武田藏之助、內藤正剛、永田良雄、村上喜貞、野崎勇二郎、野口政次郎、安井榮三、松川茂三、近藤友房、關豐馬

（イロハ順）

東海支部

校友會東海支部にては昭和七年度春季總會を去る三月廿九日午後六時より名古屋市東區鶴重町丸花亭に於て開催した。當日は折柄來名中の新興力士團の闘將我等が角界唯一の校友山錦君を迎へ、又支部幹事長梅田茂君の名古屋新聞上海特派慰問使の上海事情及び滿洲國訪問談などありて、春宵の一夜を盃は亂れ飛び河內町時代、堂島時代、福島時代、千里山時代と特異の關大魂を發揮して、午後十一時北本支部長發聲の下に母校の萬歳を三唱して盛會裡に散會した。

當日の出席者

原口孟、富田英雄、田中鋭男、田崎良一、中村簡吉、中島湖海、中根孫一、中島貞一、宗木利市、梅田茂、山錦善次郎、福光勇、大和錦幸男、松本駒吉、前田卯吉、藤本龜、小西德藏、阿澄秀夫、北本常三郎、水谷嘉太郎

東海支部春季總會席上の寄せ書

富美子孃は兵庫縣立第一高女出身の才媛なりと。新住所は灘區鶴町一丁目一五

片岡　幸三君（昭六大法）　古河電氣工業會社に入社、日光電氣精銅所（栃木縣日光町）會計課に勤務

上野　訓司氏（昭六專文）　府立寢屋川高等女學校教諭となる。

佐伯　三郎氏（昭六大經）　めでたく華燭の典を擧げ、府下三島郡千里山住宅一八九號に新家庭をもつ。

動靜

北本甚之助氏（明三四法）　大阪地方裁判所監督書記より大阪供託局長に轉任。

木下　定次氏（明三五法）　大阪供託局長より大阪控訴院書記長に轉任。

栗山　喜一氏（大三專法）　富山裁判所八尾出張所より富山區裁判所に轉勤、新住所は富山縣上新川郡月岡村開發。

諏訪富三郎君（昭六專法）　神戸市水道課長關源三郎氏次女富美子孃と婚約調ひ二月十日華燭の典を擧ぐ、

住所移動

濱田信太郎（大三　專商）　南區高津三番町四

在里　三芳（大一三專法）　西區北堀江御池通五丁目九

北村清太郎（大一四專法）　石川縣江沼郡大聖寺町廐畠一

豐岡　博保（昭三　專商）　東成區北淸水町九四一

改姓名

	（舊）	（新）
昭六專法	河面　淸	河面　吉彦
昭二專商	出石　熊藏	出石　弘俊
昭七專文	白岩　富德	岡村　富德

◆國際文學政治新聞

關西に於ける唯一の文化新聞にして一般知識階級を目標とす。

毎月一回十一日發行（全國主要書店にあり、豫約購讀は直接發行所へ）

四月號主要內容

作品の實證的把握（文學史國際會議の回顧）
巴里の劇壇
ルネ・クレールの「吾等に自由を」
東亞に於ける經濟上の對立
インフレーションと帝國主義
美のこはれ易さと藝術家の冒險性（美的現象領域の存在論的研究
景樹の歌道に入りし事情
三月の映畫
學藝消息
ゲーテの父の旅行日記

購讀料　一部　定價十錢
六ヶ月（六部）　秘共　五十五錢
一ヶ年（十二部）　〃　一圓

發行所　神戸市北野町四丁目一九二
法文學研究所
振替大阪五一三五〇番

學生彙報

皇陵崇敬會

第七回研究會——一月廿二日午後二時より政治科二年教室に於て開催す。

講師　尾上金城先生。演題、日本皇陵史

第八回研究會——一月廿九日午後二時より政治科二年教室にて開催。

講師　尾上金城先生。演題、日本皇陵史

第九回研究會——二月五日午後二時より政治科二年教室にて開催。

講師　尾上金城先生。演題、日本皇陵史

第三次第六回例會——二月廿一日武藤勇先生送別例會としての第三次第六回例會を催す。

當日午前九時半大執油阪停留所に集合せる一行十四名は自動車にて奈良市を通り抜け、一方は崖、他方は谷に接する曲りくねつた山道を巧に登り續くる事約五十分程にして第四十九代光仁天皇田原本陵に參拜、どんより曇つた空から吹き下す冷風を受けながら徒歩にて贈天皇春日宮天皇田原西陵に參拜す。

次で夜來の寒氣の爲にこおりついた田舍道を辿りて眞言宗淨別格本山菩提山正暦寺に詣で、寺前の小川にかゝれる橋上にて一同記念撮影をなし、圓照寺、贈天皇崇道天皇八島陵に參拜して一路奈良に向ひ、奈良新溫泉食堂にて簡單なる送別會を催し、愉快に語り合ひて散會す。時に四時過。

當日の參加者武藤、山內、河村、香坂、横山、大原田所の諸先生、平井、藤本、小田切、寺島、田畑、三上、大野。

馬術部

一月十九日　午後七時より心齋橋ドルバルに於て幹事會開催、名育號賣却、千草買入、耐寒行軍、乘馬學校練習費の件等につき協議す。

一月卅、卅一日　耐寒行軍を擧行。

參加者——北、入交、藤原、大西、大同、中村、木村、中村(紋)、熊田、寺西、越野、田中

參加馬——大健、相忠、曉福、淺川、勇邁、常磐

道程——愛馬會及千里山——岡山——伊丹——寶塚

歸途は寶塚——中山——池田——豐中——服部——千里山及愛馬會。

二月五日　午後大阪愛馬會に於て寺內第四師團長歡迎馬術大會に本學選手全部出場す。

支那語研究會

現下滿蒙、上海事變を楔機として、支那、滿蒙事情に通ぜんため、支那語研究熱は益々旺ならんとする折柄、本學有志一同は去る二月四日正午より本學クラブハウスに於て支那語研究會發起人會を開催した。

當日參集せし者十四名、まづ研究會名稱、組織、會員募集、講師招聘の件並に發會式擧行日時等の諸事項の討議し左の如く決定した。

一、會則は別掲の通り決定

一、會員募集は二月十五日より四月卅日まで豫科校舍控室掲示場に發表

一、講師は在阪支那語堪能者を招聘のこと

一、研究會開始期日は新學期發會式擧行早々行ふ事

而して當日の決議により陽春の候發會式を催す筈であるから入會御希望の方は會則御一覽の上御申込下さい。

出席者——水谷、賀屋、河村、山內の諸先生

岩田、石川、中山、岡澤、小田切、長澤、永井、柴田、廣田、後藤の諸君

會　則

第一條　本會ハ關西大學千里山支那語研究會ト稱ス

第二條　本會ハ支那語ノ研究ヲ以テ本旨トスルト共ニ支那滿蒙ノ地理的又ハ經濟的並ニ政治的方面ニ對スル一般的知識ノ涵養ニ努メ會員ノ海外發展雄飛ヲ爲サシムルコトヲ以テ目的トス

第三條　本會ハ其本部ヲ千里山學舍內ニ置ク

第四條　本會ハ關西大學千里山學生生徒ノ有志ヲ以テ

組織ス

但シ顧問若クハ會員二名ノ推薦ヲ要ス

第五條　本會ハ左ノ役員ヲ置ク

會長　一名
顧問　若干名
贊助員　若干名
特別會員　若干名
幹事　若干名
會計係　二名

第六條　會長ハ本學理事ヲ推ス

顧問ハ本學教職員中ヨリ本會ノ趣旨ニ贊同セラルヽ師ヲ推ス

特別會員ハ本學豫科及學部卒業生ヲ以テ推ス幹事ハ本會員中ヨリ互選ス

會計係ハ二名幹事中ヨリ選出ス

第七條　各役員ノ任期ハ一ケ年トス但シ留任ヲ妨ゲズ

第八條　各役員ニ缺員ヲ生ジタル時ハ第六條ノ方法ニヨリ之ヲ補充シ其任期ハ前任者ノ殘期トス

第九條　役員ノ職務左ノ如シ

會長ハ本會事業ノ監督ヲ爲シ會員ヲ指導ス

會計係ハ本會ノ會計事務及一切ノ記錄ヲ掌ル

第十條　本會ノ役員會ハ會長之ヲ召集ス

第十一條　本學學生生徒ハ入會ノ際入會金トシテ金一圓ヲ支出スルモノトス

第十二條　入會金ノ元利ハ本會基本金トシテ積立テ會費及其預金利子ハ次年度ノ事業ニ充當ス

第十三條　會計年度ハ一月一日ニ始マリ十二月卅一日ニ終ル

第十四條　毎年度豫算ハ役員會ニ於テ之ヲ決定シ會長ノ許可ヲ受クルモノトス

第十五條　基本金ノ支出ハ全會員總數ノ三分ノ二以上ノ出席ヲ要シ出席者ノ過半數ノ同意ヲ以テ決定ス

第十六條　金錢ノ支出ニ對スル會計報告ハ毎學期適當ナル方法ヲ以テ公示ス

第十七條　本會ノ目的ノ達成ノ爲ニ要スル費用トシテ一ケ月五十錢也ヲ各會員ハ負擔スベキモノトス

第十八條　本會ハ事業ノ一トシテ支那滿蒙ニ對スル學術講演會ヲ適宜ニ行フコトアルベシ

第十九條　會則ニ反スルモノハ役員會ニ謀リテ除名スルコトアルベシ

第二十條　會則ノ變更ハ總會ニ於テ會員總數ノ三分ノ二以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ要シ會長ノ認可ヲ得テ施行スルモノトス

附則

細部ニ亙ル規定ハ本會内規ヲ以テ規定ス

—後藤新之助君報—

全九州人會（專門部第一部）

我が九州人會は去る一月三十日午後六時半より、天神橋五丁目寶亭に於て懇親會を開催した。當日の出席者は多數と云ふを得なかつたが、會長岩崎教授も出席され、會員皆九州魂を發揮して頗る愉快なる會合であつた。磅頭副會長平島廣君（商二）の開會の挨拶、事業報告をなして宴に移り、歡談を盡し學歌、學生歌を高唱して午後十時四十分散會した。

當日の出席者

岩崎教授、杉谷曉、宮本信義、飯田守、日高厚盛
荒木康夫、平島廣、中井繁、大迫富士彦、猪俣顯
川崎正秋、柴田清、森谷克巳

基督教青年會

第十二回例會——四月四日午後六時半東區南新町二丁目、聖ヨハネ教會に於て第十二回例會を開いた、法三宮地司會者となり讃美歌五十六番を合唱聖書エペソ書六章十節より二十節を朗讀、祈禱の後本年度卒業生溝淵直政君のエペソ書を通じて示されたる自己の体驗と信仰とを語られ、巢立ち行く先輩として遺しおく青年會の將來を案じて今後共に各先輩の遺志を繼いで我が關西大學基督教青年會の爲に努力して頂きたいとの奬勵と希望があつた、次いで石原小四郎君立ちて殘る我等は微力ながら先輩諸兄を辱かしめざる丈の努力を誓ふ旨を述べ過日逝けるカトリック教會神父ビリヨン師の信仰逸話等について語り會員一同を大いに勵ました、次いで協議に移り左の事項を決定した。

一、新學期開始と共に例會日を毎月第一日曜午後及第三土曜夜に開く。

一、學部委員法三宮地正純、豫科委員豫三東義夫、專門部第一部委員商二北村雅夫、法二尾崎政明專門部第二部委員經三石原小四郎、法三森田武芳。

——宮地君報——

スキー部

本シーズンの戰績——昨春キャプテン松本、佐藤兩選手並びに、萩原マネヂャーを送り出し、尙ほ西島君の出場を見ざる今年は凋落の時至るかと思はれしも、後輩よく傳統の力を維持し孤軍奮闘よく、大阪最初の全日本神宮スキー出場選手をも出するに至り、去年に優る好成績をおさめた。

因みに戰績左の如し（以下淺野君の獲得せしものなり）

◎關西學生スキー選手權大會

一月十六日　於神鍋山

十キロ、三十三名出場

第八位　五十一分〇七秒

當日はワックスの失敗により苦戰に陷り挽回大いに努むるも遂に我に利あらずして入賞者と一分の差にて敗る。

◎第十回全日本兼第六回明治神宮スキー選手權大會山陰豫選會

一月二十三、四日　於伯耆大山

十六キロ、出場者四十九名

第四位　一時間二十三分四十六秒

復合競技　二十九名

前半、デイスタンス、三百六十点（滿点）

後半、ジャンプ　中止

假第一位

雪質惡くジャンプ不可能に付き假等級を定めしも第二位との差七〇点にて大勢は既に決してゐた。

尙ほ十八キロ、復合競技本選の出場權を與へらる

◎第十回全日本スキー選手權大會兼第六回明治神宮スキー競技大會

二月五、六、七日　於信越野澤溫泉

十八キロ、出場者百十三名

詳細不明

當日は吹雪となり各ランナ共に惡戰苦闘、寒氣、空腹、疲勞の爲再度人事不省に陷るもよく之に應へて三時間餘の力戰にてゴールイン

◎第四回赤倉スキー選手權大會

三月二十一日　於赤倉スキー場

一基米、出場者三十五名

優勝　タイム不詳

赤倉スキー選手權章獲得

◎第二回新赤倉スキー競技大會

三月二十二日　於田切スキー場

來賓レース　二十名　第一位

關西大學學報創刊十周年

記念懸賞論文募集

一、應募資格　本學學部、大學豫科及び學門部學生に限る

二、論文種別　法律、政治、經濟、商業、文學に關する學術論文に限り、文藝作品、時事問題批評等は採らず

三、論文分量　四百字詰原稿紙二十枚以內

四、締切期日　昭和七年六月十日

五、審査　種別に從ひ夫々專門教授に委囑す

六、發表　審査の結果は昭和七年七月十五日發行の本誌上にかて發表す

七、入選者　論文の優秀なるもの五篇を選び賞金を授與す。尙入選論文は順次本誌上に掲載す

八、送稿先　右締切期日までに到着するやう關西大學學報局宛郵送又は持參のこと

九、備考　封皮には「懸賞應募」と朱書するを要す

イ、文體は隨意なるも假名は平假名を用ひ墨又はインクにて明瞭に記載すること

ロ、原稿には必ず論題及び應募者の部、科、學年別並に氏名を明記すること

昭和七年四月　關西大學學報局

改造社編　マルクス・エンゲルス全集

第五卷　第七卷ノ二
第九卷　第十卷
第十四卷　第十五卷
第十七卷　第十九卷
第二十卷

新潮社編　思想文藝講話叢書

近世歐洲繪畫十二講　伊達俊光著

天六圖書館

新町德之氏寄贈圖書

春陽堂編　明治大正文學全集

第一卷　東海散史　矢野龍溪
第三卷　坪內逍遙
第四卷　二葉亭其他
第七卷　森鷗外
第八卷　森田思軒　黑岩淚香
第九卷　廣津柳浪　廣津和郎
第十一卷　高山樗牛其他二名
第十二卷　泉鏡花
第十七卷　小栗風葉
第十九卷　柳川春葉　佐藤紅綠
第二十一卷　飾、虛子、冬彥
第二十三卷　田山花袋
第二十四卷　島崎藤村
第二十五卷　德田、葛西
第二十七卷　夏目漱石
第二十八卷　鈴木三重吉
第二十九卷　森田草平
第三十三卷　長田幹彥、野上彌生子
第三十四卷　武者小路實篤、長與善郎
第三十八卷　久保田萬太郎、水上瀧太郎

日本名著全集刊行會編　日本名著全集（江戶文藝）

第四卷　近松名作集　上
第五卷　近松名作集　下
第九卷　浮世草子集
第十一卷　黃表紙廿五種
第十三卷　讀本集
第十四卷　滑稽本集
第十六卷　南總里見八犬傳　上
第十七卷　〃　中
第十八卷　〃　下
第二十卷　修紫田舍源氏　上
第二十一卷　〃　下

俳書堂編　古俳句講義　第一新年之部
同　第二春之部上
頴原退藏編　蕪村全集全
大藪虎亮著　詳解日譯　奥の細道の新研究
長野朗著　自由支那へ
土岐善麿著　萬葉全集
御巫清勇校註　平家物語
植松安校註　古事記
桑木嚴翼著　哲學と文藝
尾山篤二郎著　萬葉集物語
倉野憲司校註　上代文學新選
荒瀨邦介編　頭註引歌類聚抄
植松安校註　祝詞壽詞宣命氏文
小田清雄著　標註古語拾遺講義
遠藤佐一郎・藤田德太郎共編　元祿文學新抄
藤井乙男著　增訂國文學史教科書
高木市太郎・沼澤龍雄共編　平家物語
佐藤仁之助校註　校註　兩月物語
鳥野幸次校註　校註　奥の細道
境野正校註　伊勢物語
海賀篤麿編　常磐津集
久松潛編　中古詩歌日記選
吉澤義則監修　俳文俳句選
土岐善麿著　文藝の話（朝日常識講座第八卷）
荒木田久老著　萬葉考槻落葉（萬葉集叢書第四輯）
平井三朗著　大陸無錢紀行
三宅武郎著　日本皇太子史論
德富猪一郎著　皇室と國民（蘇峰叢書第一册）
山田孝雄講述　御即位大嘗祭大禮通義全
桑木嚴翼著　現代思潮十講
德富猪一郎著　昭和一新論
捕永茂助著　日本倫理思想の系統
杉森孝次郎著　社會進步の純粹原則
渡邊秀方著　支那國民性論
佐藤直丸著　哲學概說
藤井章著　社會倫理學序說
矢部善三郎著　年中事物考
山路愛山著　支那論
渡邊政盛著　現代改造的教育思潮批判
高橋里美著　現代の哲學（哲學叢書ノ內）
里見岸雄著　國體科學概論
土田杏村著　思想問題（時事問題講座九）
安部磯雄著　失業問題

細野長良著　民事訴訟法要義
　第三卷　昭6…378/63/3
大森洪太述　民事訴訟法講義　下卷　378/66/2

經濟、商業、財政

Clark, F. E.
緒方清、同豐喜譯　賣買組織論　下卷　昭7…465/14/2
神戸正雄著　租稅研究
　第九卷　昭3…496/20/9
　第十卷　昭5…496/20/10
大阪商科大學經濟研究所編　經濟學辭典
　第五卷　ヒ　ー　ワ　昭5……412/9/5

美術、文學

平凡社編　世界美術全集
　別卷第二卷　壁畫篇下　昭7……803/2/2
佐々木信綱外共編　校本萬葉集
　第八　自卷第十四至卷第十七　昭6…952/27/8
　第九　自卷第十八至卷第二十　昭6…952/27/9
新潮社編　第二期世界文學全集
　第十五卷　穴熊　昭7…990/56/15

寄贈圖書

朝鮮總督府　同府編、朝鮮總督府及所屬官署主要刊行圖書目錄　昭7…027/4/6
神尾弋春氏　同氏著、道家論辯牟子理惑論　昭6…115/6/1
同　同氏著、同解說　昭6…115/6/2
簡易保險局　同局編、簡易保險局統計年報　昭和五年度　404/20/5
金融研究會　同會編、講演集
　第九編　世界經濟と國際貸借　昭6…433/90/9
文部省調査部　同部編、內外教育制度の調査
　第一輯　我國教育制度概表、英獨佛米ニ於ケル文部官制、視學制度其他　昭6…550/20/1
　第二輯　教育事情、教育思潮　昭7…550/20/2
日獨文化協會　同會編、日獨文化講演集
　第八輯　杉野、獨逸演劇の現狀に就て　昭7…935/19/8
大阪市社會部勞働課　同課編、失業者數の推定に就いて　昭7…515/116/
新星館　澁谷惠編、試驗問題條文對照受驗六法　昭7……370/8/
拓務大臣官房文書課　同課編、拓務省統計概要第三回　400/63/3
拓務省　同省編、拓務要覽昭和六年版　323/1/6
東京市役所　同所編、東京職業紹介所求職事情調査　昭6…515/115
早稻田大學法學會　同會編、早稻田法學第十二卷　昭7…361/24/12
造幣局　同局編、造幣局長第五十七年報書　昭7…432/107/57

天六圖書館

購入圖書　(堀文庫)

春秋社編　世界大思想全集
　第九卷　ヴヰンチ繪畫論、ゲーテ詩と眞實、レラア素朴の文學と感傷の文學、ゴッドウイン政治的正義
　第十七卷　
　第二十一卷　エマアソン代表偉人論、自然論、論文鈔
　第二十五卷　コント實證哲學
　第三十六卷　キエルケゴール憂愁の哲理、ベルグソン意識に直接與へらたもの、オウエン社會に就いて新見解
　第四十卷　ジエームズ眞理の意味、ヘーゲル論理學、バークーニン神と國家
　第四十二卷　アドラーマルクス主義の國家觀、カントとマルクス主義
　第四十四卷　ガリレイ力學對話、サアン・シモン新キリスト教論、ユング生命力の發展
　編四十八卷　アインスタイン相對性理論、マックスプランク、エネルギー恒存の原理、物理學的展望
　第五十一卷　佛典篇
　第五十三卷　支那思想篇

改造社編　改造文庫　(第一部)
　第十五篇　婦人論　ベーベル著　由川菊榮譯
　第二十三篇　日本經濟論　田口卯吉著
　第二十四篇　日本經濟學說の要領、經濟的帝國論　瀧本誠一著
　第二十六篇　日本工業史　櫛井時多著
　第四十三篇　金融資本論　ヒルファディング著　林要譯

福田德三、坂西由藏共編　內外經濟學名著
　第一册　ジエヴンス經濟學純理　小泉信三譯

改造社編　經濟學全集
　第十一卷　資本論體系中
　第十七卷　協同組合と農業問題
　第二十七卷　マルクス經濟學說の發展
　第三十四卷　世界經濟統計圖表

千倉書房編　商學全集
　第六卷　企業形態論　增地庸治郎著
　第十四卷　賣買論　小林行昌著
　第二十一卷　倉庫論　內池廉吉著
　第三十七卷　商品學　坂口武之助著

岩波書店編　岩波文庫
　婦人論上卷、下卷、戰爭と平和第一卷
　資本論第一卷第四分册、第五分册芭蕉七部集
　萬葉集下卷、將來の哲學の根本命題他二篇
　臺想より科學へ、科學價値
　號外、カラマゾフ兄弟第一卷
　プロレゴーメナ、勞賃價格及利潤
　民約論、幸福者

千里山圖書館

購入圖書

PHLLOSOPHY

Jaensch, E. R. – Über den Aufbau der Wahrnehmungswelt und die Grundlagen der menschlichen Erkenntnis,
Teil 2. Über die Grundlagen der menschlichen Erkenntnis.
1931……127/ 27/ 2

Maier, H. – Philosophie der Wirklichkeit.
Teil 1. Wahrheit und Wirklichkeit.
1926……127/ 26/ 1

Meinong, A. – A. Meinong's Gesammelte Abhandlungen.
Bd. 1. Abhandlungen zur Psychologie.
1929……103/ a5/ 1

HISTORY

Belloc, H. – A History of England,
Vol. 4. The Transformation of England: 1. 1525—1612. 1931…241/8/4

Black Limited – Who's Who 1932 ……202/ 4/ 13

Hanotaux, G. – Histoire de la Nation française,
Tome 2. Géographie humanine de la France, 2. Vol.
1926……243/ 8/ 2
Tome 3. Histoire politique,
1. Vol. (dis Origines à 1515) par Imbart de la Tour.
1920……243/ 8/ 3
Trme 4. 2. Vol. (de 1515 à 1804) par Madelin. 1924……243/ 8/ 4
Tome 5. 3. Vol. (de 1804 à 1926) par Hanotaux. 1919……243/ 8/ 5
Tome 9. Goyau: Histoire religieuse.
1922 ……243/ 8/ 6
Tome 7. Histoire militaire et navale,
1. Vol. 1925……243/ 8/ 7
Tome 8. 2. Vol. 1927……243/ 8/ 8
Tome 12. Histoire des Lettres,
1. Vol. (des origines à Ronsard). 1921……243/ 8/ 12
Tome 13. 2. Vol. (de Ronsard à nos jours) par Strowski.
1923……243/ 8/ 13
Tome 14. Histoire des Sciences en France, 1. Vol. 1924……243 /8 /14

LAW

Strupp, K. – Wörterbuch des Völkerrechts und der Diplomatie,
3. Bd Vasallenstaaten-Zwangsverschickung; mit Anhang und Register. 1929 ……363/ 4 /3

PUBLIC FINANCE

Department of Finance – The Import Tariff of Japan 1931. (revised and corrected) 1931……497/ 1/ 2

SOCIAL HISTORY

Vinogradoff, P. –Oxford Studies in Social and Legal History,
Vol. 8. XIV. Stadies in the Period of Baronial Reform and Rebellion, 1258-1267; by Jacob.
1925……509/ 34/ 8

叢書新聞

大阪朝日新聞社編 大阪朝日新聞 (縮刷版)
通卷四十九號 昭和七年一月號 071/3/49

春秋社編 世界大思想全集
第六十三卷 リカアドウ：經濟學及課稅の諸原理、附穀物の低き價格農業保護論 昭7…001/28/63

哲學、宗教

三田哲學會編 哲學
第二輯……昭2…103/17/2
第三輯……昭3…103/17/3
第四輯……昭3…103/17/4
第五輯……昭4…103/17/5
第六輯……昭5…103/17/6
第七輯……昭5…103/17/7
第八輯……昭7…103/17/8

大東出版社編 國譯一切經
律部十三 昭7…182/1

政治、法律

大日本帝國議會誌刊行會編 大日本帝國議會誌
第六卷 自第二十一議會至第二十三議會 昭3…313/2/6
第七卷 自第二十四議會至第二十六議會 昭3…313/2/7
第八卷 自第二十七議會至第三十議會 昭3…313/2/8
第九卷 自第三十一議會至第三十六議會 昭3…313/2/9
第十卷 自第三十七議會至第三十九議會 昭4…313/2/10
第十一卷 自第四十議會至第四十二議會 昭4…313/2/11
第十二卷 自第四十三議會至第四十四議會 昭4…313/2/12
第十三卷 第四十五議會 昭4…313/2/13
第十四卷 自第四十六議會至第四十七議會 昭5…313/2/14
第十五卷 自第四十八議會至第五十議會 昭5…313/2/15
第十六卷 第五十一議會 昭5…313/2/16
第十七卷 自第五十二議會至第五十四議會 昭5…313/2/17
第十八卷 總索引 昭5…313/2/18

拜啓　毎々格別の御引立を蒙り御座を以て日に月に隆盛に向ひ候事各位の御愛顧の賜と深く奉感謝候陳者新聞紙上にて御承知如く北濱株式會社灘萬儀十二月一日臨時休業引續き本年二月會社解散の無止き悲運を迎り御得意樣各位に御迷惑を相掛け誠に汗顏の至りに存じ候就ては弊店儀元灘萬白米部として營業仕り居り候處昭和五年灘萬を株式組織には變更致し候爲萬白米部は營業の擴張と精米所の增設等時勢に應じ株式會社灘萬と其の機會に當白米部を合資會社灘萬精米所と內內經濟關係に於てのみ獨立致し從來の灘萬生產より消費及商號を組織更致し居り候處に到る幾多の冗費を省き所謂需給の合理化の理想に邁進致し乍ら弊店としては株式會社灘萬に賣掛代金の債權を有せるのみにて然し會社灘萬の解散事件に遭遇致し候間御安心被下度候今後は益々勉強致し御得位樣本位に精一ぱい眞面目に努力致す信條に御同情を以て御心配なく御引立の程伏して奉願上候

昭和七年四月

大阪市北區樋之口町
合資會社灘萬精米所
代表社員　廣實郁雄
電話　堀川（八五一）一四四番
出張所　大阪市東成區猪飼野町
榎市場出張所
電話　天王寺二一一四番

◎東大阪方面に營業擴張の爲め
東成區猪飼野町　公認　榎市場
に弊店小賣販賣店を新設致し、大量販賣による價格の低廉と品質の嚴撰、容量の確實、米の保證付等を最大モットと致し小賣に努力致す事と相成候間精々本店同樣御利用の程伏して願上候

◎四、五月大奉仕として
眞正の胚芽
朝鮮仁川一等白米
はウント勉强致し原價奉仕仕る可く候間多少に拘ず御用命の程重ねて御願申上候

◎配達の迅速
市內は五升以上電話一つハガキ一本ですぐ御屆可仕候

千里山俳壇　朝冷選

□　豫二　藤戸道彦

蛍もして魚料る春の爽かな
病院の待合室や春の雷
龜濁す水に蘆の芽立ちにけり
長閑さや仁王の腕の力瘤

□　專法三　宮崎忠義

驕卒業生諸兄

鹿島立つ日や一天の麗かに
追加　朝冷
水煙を上げゐる堰の柳かな
櫻人月踏み戻る堤かな
燈に背むき町を離なるる春夜哉

當季雜詠募集

□封皮には必ず「千里山俳句」と朱記の事

□送稿先
大阪（東淀川局）十三東町三丁目
牡丹書房　有田朝冷

（第一五頁より續く）

髓である」と評してゐる。蓋し一切の經濟問題は、この價格形成の一方程式組織に參加し協同する生產手段に對する形式に存するからである。又Cassel に注意深きA. Amoun は一九二四年の Cassel's systemder Theoritische Nationalökonomie, Archiv. に於て、Cassel の價格形成過程の所論は、未だ價格形成過程の說明に非ずして、單にその發端なりとし一九二六年に於ては、「始めて最近に至つて、實に Cassel が需要と供給との間の依存關係に對して精確なる表現を與へることに成功してゐる」と云つてゐる。A. Amonn; Frundzüge der Volkswihlstandslehre 1926.

註（1）G. Cassel; Fundamental Thougats inEconomics; p. 53.
（2）G. Cassel; ibid; p. 70
（3）G. Cassel; ibid; p. 66
（4）G. Cassel; ibid; p. 68
（5）G. Cassel; ibid; p. 73
（6）G. Cassel; ibid; p. 74

大正十一年六月十五日創刊
昭和七年四月十三日印刷
昭和七年四月十五日發行
不許複製
編輯兼發行人　大阪市東淀川區長柄中通二丁目十二番地　關西大學學報局　遠藤銀
印刷者　大阪市北區堂島上三丁目十五番地　谷口春雄
印刷所　大阪市北區堂島上三丁目十六番地　谷口印刷所
發行所　大阪市東淀川區長柄中通二丁目十二番地　關西大學學報局
天六學舍　大阪市東淀川區長柄中通　關西大學　電話堀川（一〇三九）振替大阪一三七五六五番（一八八〇）
大阪市外千里山　關西大學　電話吹田一二三

生徒補缺募集

晝夜共甲種認定

此花商業學校

特長　徴兵猶豫・幹部候補生・在營期間短縮・上級學校入學資格其他

晝夜共補缺若干名

大阪市長柄（市電天七下車東二丁）

電話　堀川（一一九五〇番）（一一九五一番）

本學學報は維持費として年額壹圓御拂込の方に御送りして居りますから、校友その他關係者各位に於いて購讀希望の方並に今月を以て維持費切れとなる方は左欄申込書と共に維持費御拂込を願ひます。

昭和七年四月

關西大學學報局

御拂込は郵便爲替か振替かを希望いたしますが若し三ヶ年分以上御拂込下さるならば御手數のかゝらぬやう集金郵便にいたします。

學報申込書

一金　圓也　但學報維持費　ヶ年分（自昭和　年　月　至昭和　年　月）

右金額相添へ申込候也

昭和　年　月　日

氏名

明治 大正 昭和　年　學部 專門部　科卒業

一、勤務先

一、現住所

關西大學學報局御中

拂込方法　振替貯金、郵便爲替　集金郵便

（不用の文字を抹消して下さい　但し集金郵便は金壹圓以上に限ります）

米胚芽の有効成分

ヴィタミンB含有最多量

脚氣の豫防と治療に

パラヌトリン

大阪朝日新聞（昭和六年四月二日記載）

米の營養價論爭と題せる記事中に曰く「東京市衛生研究所の藤巻博士が「米の研究」の結果を發表したが、昨年十一月以降各種米の營養試驗を行つた結果、玄米に含むヴィタミンBを一〇〇とすると胚芽米三七・六%七分搗米二八・四%石搗砂米一九・八%で、もし胚芽米營養價を一〇〇とすれば、七分搗米は七五・四五%となつて居り、化學分析の結果から見ても動物試驗によるところも胚芽米が七分搗米に優つゐることが証明されたのである、つまり米に含むヴィタミンBの殆んど全部は胚芽の中にあり、同博士は更に鳩二百羽について脚氣の研究をしたが胚芽米を常食とするものは絶對に脚氣に冒されることのないことをも証明され、島薗、佐伯兩博士の論爭の上に實驗報告は一つの鬼をつけるものである」と

パラヌトリンは米胚芽含有のヴィタミンB營養分を完全に抽出せる製劑なれば白米の常食によつて起るヴィタミンB缺乏並に脚氣の豫防と治療に極めて優秀なる効果を奏す。

包裝

液劑一〇〇cc　一　円
粉末　五〇瓦　一円二十錢
錠劑　五〇錠　一　円
同　一〇〇錠　一円八十錢

粉末
錠劑
液劑
注射液あり

詳細なる實驗報告書申込次第送呈

製造發賣元

大阪市東區道修町　株式會社　塩野義商店　東京市日本橋區本町

PA-10

教科書參考書販賣及出版

關西大學
同第二商業學校
關西甲種商業學校
指定教科書販賣

關西書院

野島書店

大阪市此花區上福島北三丁目一二三
電話 土佐堀一二八六番

出張所 本學天六學舍地階

參考書の御用は弊店へ

出版及謄寫プリントは迅速確實な弊店へ御用命の程を

（量的生産よりも質的向上を目標とす）

北陽商業學校

第二部（夜）（文部省認定特設夜間授業ノ甲種商業修業年限本科四年制高小卒又ハ同程度ヨリ入學）**第一學年**

第二部上級各學年補缺若干名ニ限リ檢定試驗ノ上入學ヲ許可ス

學則ハ郵便又ハ直接學校ヘ（電話北七五七五番）

所在地　**大阪市東淀川區淡路町**（天六ヨリ約五分淡路交叉点下車新京阪電車淡路下車東一丁半）

（量的生産よりも質的向上を目標とす）

本校の特色

一、中學校卒業と本校卒業生の特典

本校は文部大臣の認可を得て設立したる第一部五ヶ年制（入學資格尋小卒）第二部本科四ヶ年制（入學資格高小卒又ハ同程度）の甲種商業學校なれば本校卒業生は一般上級學校入學に關し第一部第二部を問はず中學校卒業者と同等の資格特典を文部省より指定せられ文官任用令により判任官たる資格及在學中徴集猶豫（兵役法改正ニヨリ在學中徴兵檢査ヲ受ケナクテモヨイ）幹部候補生たる資格及在營年限短縮其他官公立同種學校の有する一切の特典を有す（本校には陸軍省より現役配屬將校が配屬されて居る）

二、人格の感化は本校教育の第一義

人格の感化は吾人の容易に口にし得べからざるところなりと雖も訓育の第一義は畢竟茲にあり、故に先づ教師の人選を嚴格にし、成るべく言説の教を少くし學校全生徒中に道德的空氣を瀰漫せしめあらゆる施設中に德性錬磨の機會を偶せしめ以て方今漸く華美惰弱に流れんとする都市子弟を指導せん事に努む。

三、本校商業學科と實力養成

甲種商業學校卒業生は一般上級學校入學に關し中學校卒業生と同等以上の資格取扱をうけ上級學校に進み得るも商業學校の使命は實際社會に役立つ實務員の養成にあり、故に本校に於いては廣く實業家の實際上の意見を徴し以て商業學科及び殊算科に力をいたしあらゆる機會をとらへて之が實力養成に資せんとす。

四、人としての教育

學校教育の窮極は人としての教育即ち人間としての教育であるべきなり然るに現時中等教育に於いては餘りに主智的職業的に偏し人から人へ心から心への精神教育について比較的省みられず本校が音樂科を學科中毎週一時間を加へたるも蓋し意こゝにあり。

五、照明學上より備へたる本校教室

從來高唱されつゝある學校衛生設備は多く晝間通學生のみを考慮し夜間通學生の爲めに省みらるるもの殆ど無し本校は特に此點に意を用ひて各教室に冬季はストーブを設置し夜間教室電燈其他の設備の完備に努む。

六、教育的環境と生徒の健康

本校新校舍は東淀川區柴島水源地に隣接し流れつきせぬ淀川を前方に東に生駒山西に六甲摩耶山を一眸に望み長閑に霞む春の日は附近一體菜花に埋れ空氣清澄教育上學校衛生上最適地なり

七、委託生制度

本校（第二部即ち夜間部）に銀行會社商店の委託生制度を設け之等入學者は入學に關し特別の取扱をなす。（但シ委託生ハ第一學年第二學年ニ限ル）委託生特別取扱は諸銀行會社商店勤務のものにして自己の勤務先の直接監督者の推薦あるものは詮衡の上無試驗入學を許す。

八、關西大學校友推薦無試驗入學

小學校最終成績平均八點以上のものに限り詮衡の上無試驗入學を許可す。

大大阪の新名物

三越前地下道

完成・開通

自動車、電車、
自動車、自動車、自動車、
電車、バス、バス、バス、
繰るやうな三越前も
この一大阪最初の、
モダーン地下道の出現で、
全く樂々とお越しを願
へるやうになりました。
是非御利用を願上げます。

大阪
三越

三越前地下道